

## 第 61 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 28 年 10 月 31 日(月) 午前 10 : 30 ~ 12 : 00
2. 開催場所 COM 倶楽部会議室 (箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階)
3. 委員の出席 委員総数 7 名
- 出席委員 6 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、稲井信也、桑田政美  
中村保、高谷和彦、神垣美代香
- 欠席委員の氏名 須貝昭子
- 放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (取締役統括部長)  
太平麻由美 (編成課長)  
小川 亮 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 ハイスクールプログラム第 5 週  
「第 19 回ハイスクールサミット」  
劇団「すずしろ」アワー
- 2) 審議
- 3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

## 6. 審議内容

### 1) 番組

#### (1) 事務局より番組説明

<ハイスクールプログラム 第5週「第19回ハイスクールサミット」について>

「ハイスクールプログラム」は、箕面にある4つの高校が週替わりで放送を担当しています。第5週は「ハイスクールサミット」と題して、4校の生徒が集まり、合同で番組を制作します。

今回のハイスクールサミットでは、茨木市の中高一貫のインターナショナルスクール「コリア国際学園」の生徒をゲストに招き、同校で取り組んでいる「哲学カフェ」について伺ったほか、番組後半では、実際に「哲学カフェ・ラジオ版」に挑戦しました。

若い世代である高校生の、生の声を聴きたい。「ハイスクールプログラム」は、そんな思いで放送している番組です。4校合同の「ハイスクールサミット」は、異なる学校の生徒たちが一緒に番組を制作することで、互いに刺激しあいながら交流していくようすを紹介しています。

生徒が主体となって定期的で開催している「哲学カフェ」は、同国際学園の生徒のみならず大学生、社会人、子連れの母親など、さまざまな人が参加して、一つのテーマに沿って意見を交わしています。相手を言い負かすことやテーマへの結論を出すことが目的ではなく、さまざまな意見に接しながら自分の気づきを深めていく場としてのこの取り組みが、ラジオの題材としても可能性があるのではないかと考え、実際に高校生たちに挑戦してもらいました。テーマも高校生たちが話し合い「学ぶこととは」に決定し、収録に臨みました。発言は相次ぎ、予定時間を大幅に超えてなお終わる気配がなかったため、止むを得ずストップをかけるほどでした。高校生たちの思い、生の声を伝えるという番組の趣旨が、ある程度達成できたのではないかと考えています。同サミットは第5週のみ放送ですが、今後も、ラジオを通じて4校が交流し、高校生の考えを伝えていくための工夫を続けていきます。

<劇団「すずしろ」アワーについて>

箕面を拠点に世界で活躍するシニア劇団「すずしろ」の有志が第2・4土曜日に放送。毎回、公演情報などを織り交ぜながら、趣向を凝らしたテーマでお送りしています。第2週は、ラジオドラマや、劇団にゆかりのあるかたをゲストにお呼びする「ザ・すずしろヒストリー」、音楽とナレーションで構成する「ミュージカルの世界へようこそ」、「ヨーロッパ旅と音楽」を月替わりで放送。第4週は、固定メンバーで青春時代の音楽を紹介しています。人生経験が豊富で、多くの引き出しがあるシニアならではの番組です。

番組開始から2年目。シニアの引き出しを活用させていただき、かつ、みなさんが楽しんで番組づくりに参加してくださることを目標にしています。今回のゲストは倉田箕面市長。年齢では市長の先輩にあたるシニア世代のすずしろ団員だからこそお聴きできる、市長の一面も引き出しています。今後も、さらに聴きやすい番組を、団員のみなさんと相談しながら作っていきます。

(2) 審 議

<ハイスクールプログラム 第5週「第19回ハイスクールサミット」について>

A委員：我々高齢者にとっては「ヤバイ」など気になる発言はあったものの、全体的には非常に楽しく放送していたのが良かった。「哲学カフェ」は高校生らしいトークだった。高校生という若い世代の生の声を聴きたいという意図に対しては、しいて言えば、こういう企画は名指しではなくフリートークでなければ本当の声が出てこないのではなかったのと、誰に伝えたいのかが、金曜日夜9時30分という放送時間帯とミスマッチに感じた。  
もう少し遅い時間帯が適当ではないか。

委員長：ターゲットを意識した放送時間帯なのか

事務局：高校生や同じ世代に届けたいと考え、放送時間を設定したが、改めて高校生自身にリサーチする

B委員：哲学カフェはいろんな意見が出ていて良かったが、高校生から出てきた意見や考えに対して、アドバイスできるような大学生などのコメントがあっても良かったのでは。外国人の高校生が参加していたが、考えの違いや共通点などを知ることができるので、もっと奥深く、表面だけじゃなく、広げて行ってほしい。

C委員：今の若い者といったら携帯をいじったり、パソコンでメールしたり、そんなことばかりしているのではないかと思っていたが、この番組を聴くと、ラジオに出演して自分たちの思っていることを堂々と電波に乗せて話し合うことができる、そういう若い世代もいるんだなと感じた。放送時間帯については、私も、果たしてこの時間帯はどうかという疑問はあった。

D委員：高校生の国際感覚というか、違和感なく交流できるというのが興味深かった。「哲学カフェ」は新しい手法。ネット社会なので、最近の子は、ネットで拾った他人の意見を自分の意見のように言う傾向もあるようだが、今回聴いていると、そうではなくごく自然に自分の意見を話していた。こういった感覚を身に付けていくには良い番組ではないか。

委員長：高校生の考えていることを親の世代が知りたいと思っている。例えば親が知りたいことを聴けるような番組にしていくのもねらいとしておもしろいかもしれない。

E委員：コミュニティFMは、常に地域の学生の番組を作るべきだと考えている。そういう意味では無条件でマル。高校生、大学生が自主的に番組を作って、地域コミュニティの中で話すというのはとにかく何でもいい。でも、この番組は中身も、つかみのところで話していたコリア語の話しが興味深く勉強にもなり、内容的にも遜色がないいい番組だった。「ヤバイ」という言葉もそんな使い方があったのかと知った。ターゲットはやはり、高校生と中・高生の保護者だろう。ただ、放送の前に告知がない。ホームページを見ても「こんなのやりました」は出ているが全部アフター。事後報告。例えばちらしを作ってあげて4校の高校生に渡すとか、保護者が聴けるように知らせるとか、さまざまな広報の方法があるので工夫すべき。親が聴いたら、自分の子のことを考えるきっかけになる。そこへ伝わる告知が足りない。

放送時間帯の調査をしたとしても、放送時間を知らなければ聴くことができない。極端に言えば何時でもいいので、とにかく放送するよという告知を考えられないか。これができればファンが増えてくるはず。ホームページにも、高校生・大学生の番組を囲みで紹介するとか、名刺交換した人たちに番組案内のメールを手当り次第送るなど工夫を。

A委員：今はいかに拡散するかという時代。情報を拡散したらポイントを付けるなどの工夫もできるかもしれない。

委員長：若い世代の番組は非常にいいが、大人の娯楽番組以上に厳しく管理してほしい。また、時間帯をチェックする際に、学生たちの希望していることもリサーチしてほしい。

<劇団「すずしろ」アワーについて>

A委員：聞き手のキャラクターが自然体で、会話のテンポも良かった。

B委員：和やかに市長が話していて良かったが、地域の課題の質問ができないか。

事務局：今回の番組の趣旨が、劇団との関わりから「表現すること」をテーマに進めた。市長に施政について話していただく番組は、週1回別の番組で放送している。

C委員：市長の一面を感じられた聴取者も多かったのではないか。

D委員：市長の人となりが出るようにうまく質問されたなと感じた。地域で開催されるタウンミーティングでは施政について本音を話される。この番組はそういう番組ではないから。

E委員：市長の中学3年生頃からの歴史を知ることができ、楽しく聴いた。

F委員：(書面参加) 2つの番組ともおもしろく、興味深く聞き入った。特に「ハイスクールサミット」は聴きごたえがあった。ごく普通の高校生であろう出演のみなさん一人一人が、しっかりと発言していることに感動し、自然体

の会話であることが驚き。日頃から演技などに興味があり、慣れているということもあると思うが、この番組で培ったコミュニケーションではないかと思うと、とても奥の深い番組づくりであると感じた。ゲストの高校生もすばらしく、哲学カフェの内容はたいへん興味深く、またこのテーマで番組を聴きたいと思った。劇団「すずしろ」の市長とのやりとりも、聞き手の人柄が市長のプライベートな一面を引き出した番組になったと思う。

7. 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

なし

8. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://company.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 28 年 10 月 31 日

箕面FMまちそだて株式会社

番組審議会